

# 日刊 山陽建設通信

発行所  
山陽建設通信社  
編集発行人 開裕司  
郵便番号 700-8691(私書箱50号)  
本社 岡山市北区奥田1-4-28  
TEL(086)222-2727  
FAX(086)222-2737  
www.sanyo-kn.com/  
購読料1ヶ月6,000円(消費税別)  
©日刊山陽建設通信2019

日新製鋼建材  
高性能カラー:月星GLカラーセリオスプライム  
\* 耐候性・割れ・変退色/最長15年保証  
めっき:ガルバスター、耐候用アルスターXV  
環境折板:HK-500、HK-600(日本製板)

**アサヒ金属株式会社**  
岡山県総合流通センター(早島地区)  
☎(086)292-5858(代表)

## 日本丸跡地など城下地区まちづくりプラン

津山市中心市街地活性化協議会

中長期的な再編計画を提案

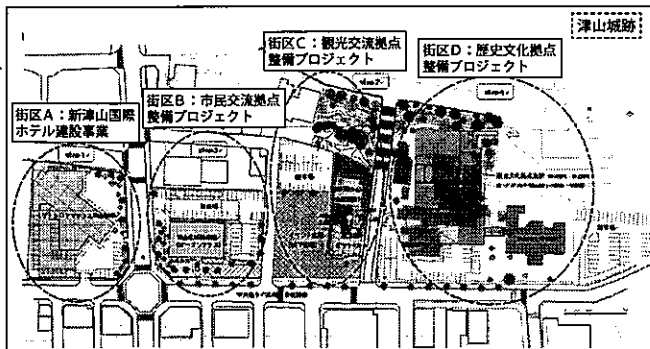
津山市中心市街地活性化協議会(松田欣也会長)は、市中心部の再編整備に向けた「城下地区まちづくりプラン実行計画」をとりまとめ、このほど津山市に提案した。市内中心部の観光・にぎわい振興を目指すための再開発方針をまとめており、活用策が目される旧津山国際ホテル跡地の整備案なども含まれている。

実行計画で重点エリアとされているのは、津山城跡から南側の一帯(津山市山下)。一角には今年3月、津山国際ホテルを移転改築したザ・シロヤマテラス津山別邸が開業している。協議会は同エリアの再開発計画となる「城下まちづくりプラン」も16年度にとりまとめ、津山国際ホテルの移転計画でも中心的な役割を果たした。

実行計画では、津山国際ホテル移転改築後の中長期的な再整備計画を提案しており、ザ・シロヤマテラス別邸を街区Aとし、その他の街区B~Dについて活用策をまとめている。

先行して整備すべきと位置付けるのは、旧国際ホテル跡地に当たる街区Cで、旧建物の解体後は市有地となる。「(仮称)津山城下広場」とし、地区イベントのさくらまつりやごんごまつりに活用する。また、旧国際ホテルで利用されていた日本庭園の鶴泉苑は、現在の庭園を活かして「新鶴泉園」に再整備、庭園と隣接する交流施設として、透明感のある低層建物を新築する。登録有形文化財の森本恵三記念館[約468㎡]は、当時の姿に復元補修工事を行い、本館を観光向けのビジターセンターとして、土蔵は保管庫として再利用するため敷地内で移設工事を行うとしている。

街区Bには、津山商工会館や中国銀行津山支店があるが、市内中心部の他エリアへの移設を促し、跡地を観光客向けの「(仮称)津山広域物産館」に整備することを目指す。物産館は、ホテルとの相乗効果を狙う飲食店中



〈城下地区の重点エリア・プロジェクト構想〉

心の施設としオープンテラスも整備、にぎわいづくりに資する空間とする。街区の駐車場は60台分程度を想定、また、ホテルと物産館に挟まれた鶴山通りの歩道拡幅、電線地中化、バリアフリー化など再整備を提案する。

街区Dは、市が改修工事を実施中の津山郷土博物館、観光施設のつやま自然ふしぎ館を含むため、当面は現施設の改善に留めるが、将来的には各施設を接続した「歴史文化拠点施設」への再整備が望ましいとの方向性を示した。とくに観光センターは、大型バスの利用で交通安全性に課題があるため、広域物産館整備にあたって機能を統合、移転すべきとしている。

計画ではこのほか、各街区前を通る城跡南道路を現在の3mから4.5mに拡幅してプロムナード化すること、近隣に大型バスの利用も可能な観光駐車場4000㎡以上を整備することなども提案している。また、ソフト面では、市観光協会が主導で進める「津山版DMO」を、城下地区の開発・運営事業の推進組織とすることも挙げた。

津山市は提案内容を今後の検討に反映させる方針で、当面は、街区Cの旧ホテル跡地について、活用計画を年度内にまとめる。



アスカセキュリティ機動部隊  
異常事態の強い味方。

- 機械警備
- 交通警備
- 施設警備
- 巡回警備
- 常駐警備



### ●福祉警備

老人福祉緊急通報システム  
救急患者搬送サービス

アスカセキュリティ救急車  
緊急の際の救急体制も万全。

# AsK 飛鳥総合警備保障株式会社

〒700-0943 岡山市南区新福1丁目11番35号

本社 ☎(086)264-2295  
管制本部 ☎(086)264-6006  
FAX(086)262-6366